

大和村防災マップ

大 棚 地 区

我家の避難場所

津波の心得

津波情報に注意する



地震が発生したら、テレビやラジオ等をおして津波情報を入手することが大切です。津波の到達時間が満潮時に重なった場合は、発表値より高くなる場合もあります。

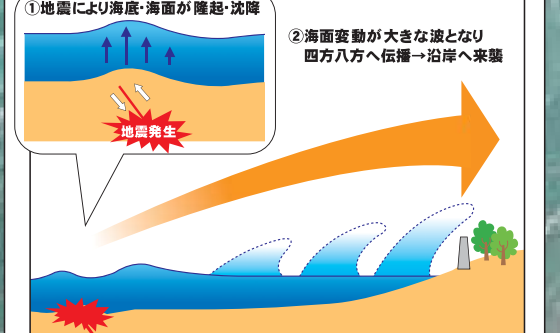
安全な場所に避難する



津波情報の発生や強い揺れを感じた場合は、速やかに高台に避難しましょう。また、津波は第1波より続く波、第2波の方が高くなることもあり、警報、注意報解除までは気をゆるめないようにしましょう。

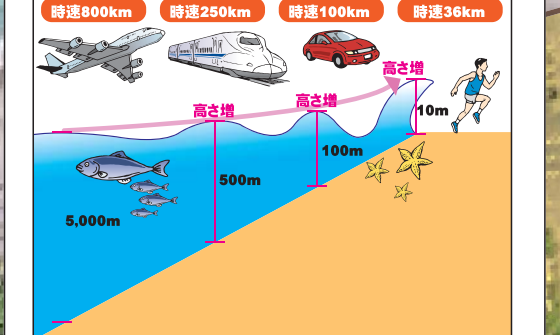
津波のしくみ

津波の発生



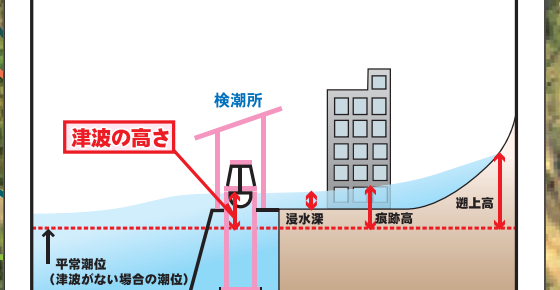
地震が発生したら、テレビやラジオ等をおして津波情報を入手することが大切です。津波情報には、常に注意しましょう。

津波の速さ



津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度がおそくなるため、津波が陸地に近づくにつれ、陸から来る波が前の波に追いつき、波高が高くなります。

津波の遡上高



「津波の高さ」とは津波がない場合の潮位（平常潮位）から、津波によって海面が上昇した時の高さの差を言います。さらに、海岸から内陸へ津波が、かけ上がる高さ（最高）を「遡上高」と呼んでおり、高い場合には3～4倍程度までなることが知られています。

土石流危険渓流

- 渓流の勾配が急である。
- 渓流に大きな石がごろごろしている。
- たくさん土砂が堆積している。
- 上流が山崩れなどで荒れている。
- 過去に土石流があった。



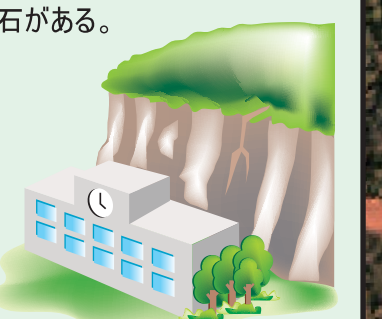
地すべり危険箇所

- 過去に地すべりがあったところ、今も少しずつ動いている。
- わき水や地下水が豊富である。
- 断層があるところやもろく崩れやすい岩石がある。
- 火山作用あるいは温泉の作用で粘土化した土がある。



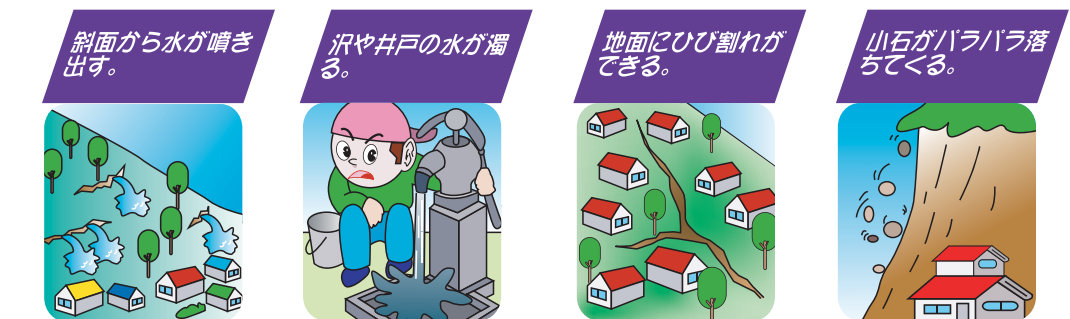
急傾斜地崩壊危険箇所

- 山の傾斜に亀裂やわき水がある。
- 岩石がもろく崩れやすい地質である。
- 過去に山崩れがあった。
- 山崩れがあった場所に隣り合っている。
- 急斜面で、軟弱な地盤がある。
- 水の集まりやすい斜面地形である。
- ときどき落石がある。



土砂災害危険箇所・危険区域図

土砂災害の発生時には、こんな現象が起ることもあります。



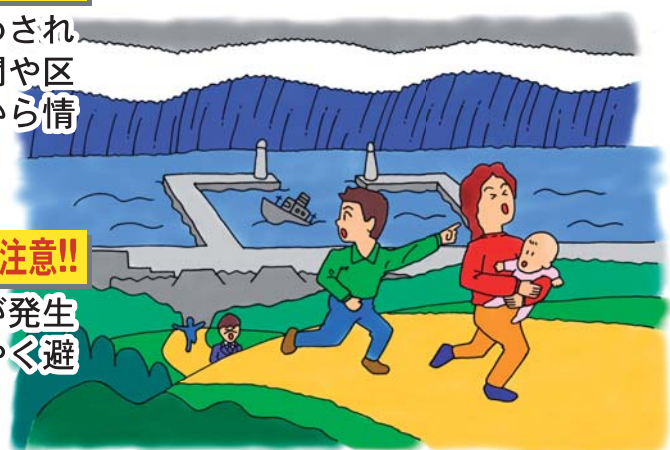
◎いざという時のために、覚えておきましょう。



1時間に20ミリ以上、または 土石流は速度が速いため、日頃から家族全員で避難降り始めてから100ミリの降 土砂の流れる方向に対して 場所や避難する道順を決め雨量になったら注意が必要 直角に逃げるようにしましょう。 ておきましょう。

◎デマにまどわされない!!

災害時は、デマなどに惑わされやすくなります。報道機関や区市町村、消防・警察などから情報に注意しましょう。

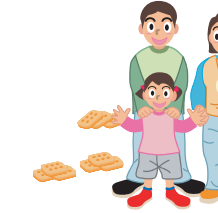


◎山崩れ・崖くずれ・津波にも注意!!

山崩れ・崖くずれ・津波が発生しそうな地域では、すばやく避難しましょう。

避難時の心得

- ラジオ、テレビで最新の気象情報、洪水情報を入手しましょう。
- お年寄りや子供は、早めに避難が必要です。
- 避難する時の荷物は必要最小限(非常食、飲料水、懐中電灯、携帯ラジオなど)にし、2人以上の避難を心掛けましょう。
- 徒歩での避難を心掛けましょう。車を使つての避難には、危険を伴うことがあります。
- 避難する時は、まず水の浸からない道路へ速やかに移動しましょう。
- 洪水による水の流れが、場所によっては相当速いことが予想されます。避難時には、水の流れの速さにも十分注意しましょう。
- 村役場などからの避難の呼びかけがなくても、各人が洪水や崖崩れなどの危険を感じた場合には、自主的に避難しましょう。



大和村公民館

大和村小学校

凡 例	
名 称	記 号
避 難 場 所	
土砂災害警戒区域等	
土 石 流 特 別 警 戒 区 域	
土 石 流 警 戒 区 域	
急傾斜地の崩壊特別警戒区域	
急傾斜地の崩壊警戒区域	
標 高 色	
10～ 20m	
0 ～ 10m	